

平成18年度事業計画（平成18年4月1日 ～ 平成19年3月31日）

寄附行為より

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 日本の伝統文化及び現代芸術の分野における優秀な新人及び文化・芸術の研究者に対する助成
- (2) 日本の伝統文化及び現代芸術を展示、公演する文化芸術祭の開催
- (3) 日本の伝統文化及び現代芸術の分野で著しい貢献をした者に対する 顕彰
- (4) 芸術系大学等に在学する学生に対する奨学金の給付または貸与
- (5) 文化・芸術の交流を通じて国際社会の相互理解を促進する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

事業概要

1. 第14回 助成顕彰事業

(寄付行為第4条の第1項、第3項、第5項)	<u>6件 総額 10,000,000円</u>
(ア) 日本文化芸術奨励賞	2件 1名 1,000,000円
(イ) 日本文化芸術振興賞	2件 1名 1,500,000円
(ウ) 外国人留学生・研究者助成金	2件 1名 1,000,000円

2. 育英事業

(寄付行為第4条の第4項)	<u>4件 総額 1,930,000円</u>
(ア) 大学生奨学金給与	2名 1名 300,000円
(イ) 大学院生奨学金給与	2名 1名 500,000円

3. 文化芸術普及活動事業

(寄付行為第4条の第2項及び第6項)	<u>4件 総額 26,140,000円</u>
(1) 日本音楽公演「音楽のきずなシリーズ」	1回 5,800,000円
(2) 「社の中の伝統文化祭」	7日 18,300,000円
(3) 丸の内化元気プロジェクト企画参加	7日 1,100,000円
(4) ホームページ事業・ほか	940,000円

1. 第14回助成顕彰事業（寄付行為第4条の第1項、第3項、第5項） 【10,000,000円】

A) 部門

(ア) 日本文化芸術奨励賞

- 日本伝統文化奨励賞
- 日本現代芸術奨励賞

(イ) 日本文化芸術振興賞

- 日本伝統文化振興賞
- 日本現代芸術振興賞

(ウ) 外国人留学生・研究者助成金

B) 対象

(ア) 日本文化芸術奨励賞（団体も可）

芸術・伝統文化の活動（研究）において、すぐれた才能・能力が認められ、今後、更なる活躍が期待される者を対象とする。年齢・国籍は問わない。受賞1年後に活動の近況報告を行う義務がある。

(イ) 日本文化芸術振興賞（団体も可）

優れた芸術・伝統文化の活動（研究）により、芸術・伝統文化の振興、また、新しい方向性を示唆するなどの著しい功績をあげた者。あるいは伝統文化、伝統芸術の維持伝承および振興を支えながら、顕彰の対象として顧みられることのなかった各分野（各職能分野等）について注目し、隠された優秀な人材を発掘し顕彰する。年齢・国籍は問わない。

(ウ) 外国人留学生・研究者助成金（団体も不可）

日本の伝統文化の技術を修得、または調査研究をするために日本に留学・滞在しているか、6ヶ月以上の留学・滞在を予定しており、日本の芸術・伝統文化への理解、国際交流、普及に貢献することを期待される外国人。原則として40歳未満。受給後に活動の近況報告を行う義務がある

C) 受給者数及び授与金

(ア) 日本文化芸術奨励賞	2件以内	奨励金 1件 100万円
(イ) 日本文化芸術振興賞	2件以内	賞金 1件 150万円
(ウ) 外国人留学生・研究者助成金	2名以内	助成金 1名 100万円

D) 応募方法

- (ア) 日本文化芸術奨励賞・・・指定の応募書類（申請書及び推薦書）と資料
(イ) 日本文化芸術振興賞・・・指定の応募書類（推薦書）と資料
(ウ) 外国人留学生・研究者助成金・・・指定の応募書類（申請書及び推薦書2通）と資料

資料料は5点以内（ビデオ、掲載紙、ポートフォリオ等）

E) 募集方法・・・一般公募

F) 選考方法・・・申請書、推薦書、資料を基に当財団の助成顕彰事業選考委員会にて審議選考の上、理事会で決定

G) 選考委員・・・委員長：芳賀 徹

委員：金子賢治、観世榮夫、木戸敏郎、栄久庵憲司、酒井忠康、中村昌生

H) 贈呈式の開催・・・決定・通知後、贈呈式を開催

I) 授与金の支給の方法・・・贈呈式終了後1ヶ月以内に本人の指定の口座に振り込む

※ 応募・募集方法は、より効果的で公平な方法を検討し積極的に取り入れる

● 実施予定

告知：平成18年10月中旬 本財団のホームページ

応募受付：平成18年11月1日から平成18年11月下旬予定（当日消印有効）

広報活動：ホームページによる告知、専門誌・関係誌にリリース、

応募要項の送付、実施のおしらせ送付

発送先：美術館・博物館・大学・大使館・財団役員・過去の助成顕彰関係者・会員

協賛者・評論家・画廊・海外機関、資料請求者 予定約800件

選考委員会の開催：平成18年12月下旬 予定

選考方法：

- ・ 事前に選考委員に全応募者の資料の要約を送付し、閲覧を依頼。
- ・ 選考委員会当日、応募者から提出されたビデオテープ、CD、ポートフォリオ、論文集、カタログ、パンフレット、著書、掲載書籍等を視聴及び回覧し、審議の上多数決にて選出。

● 振興賞・奨励賞・助成金の贈呈式及び懇親会の開催

◇ 第14回 日本文化芸術振興賞・奨励賞・助成金贈呈式の開催

1. 開催日 平成19年3月上旬予定
2. 会場 明治記念館
3. 内容 贈呈式、授賞者・受給者の紹介及び作品発表、祝宴

2. 平成18年度(11回目)育英事業（寄付行為第4条の第4項） 【1,930,000円】

A) 対象

国内の芸術系大学の3年生・4年生または大学院に在学し、絵画・彫刻・工芸・建築（造園を含む）・デザイン（グラフィックデザイン及び工業デザインのみ）の実技部門を専門としている学生

B) 募集方法・・・4月上旬に実技部門のある芸術系大学に応募書類送付

C) 応募方法・・・芸術系（実技部門）の大学を通じて応募

応募書類（願書、推薦書、在学証明書、成績証明書、作品写真）

D) 給与人数及び金額・・・大学生 2名 奨学金 1年間30万円の給与

大学院生 2名 奨学金 1年間50万円の給与

E) 選考方法・・・応募書類を元に、当財団の奨学生選考委員会にて審議選考の上、理事会で決定

F) 選考委員・・・委員長 久谷政樹（互選により選出）

委員 井上隆邦、徳山豊、中村一、野呂美美子、長谷川文雄

G) 奨学金の支給の方法・・・決定、通知後、本人の口座に、7月と10月の2回に分割して支給

● 実施予定

募集：全国の4年生芸術系の44校に大学に応募要項を送付

道都大学、北海道東海大学、東北芸術工科大学、つくば大学、日本大

学、多摩美術大学、東京芸術大学、武蔵野美術大学、東京造形大学、女子美術大学、ものづくり大学、静岡文化芸術大学、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形芸術大学、大阪芸術大学、宝塚造形芸術大学、京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、金沢美術工芸大学、成安造形大学、神戸芸術工科大学、九州芸術工科大学、九州産業大学、沖縄県立芸術大学、静岡大学、九州大学、名古屋市立大学、尾道大学、広島市立大学、東北生活文化大学、玉川大学、東海大学、文化女子大学、金沢学院大学、京都嵯峨芸術大学、大阪成蹊大学、近畿大学、倉敷芸術科学大学、崇城大学、和光大学、東京工芸大学

募集期間 : 平成18年5月6日～平成18年5月15日(予定 当日消印有効)

応募書類 : ①奨学生願書 ②奨学生願書2 ③担当学科専任教官より推薦書
④成績証明書 ⑤健康診断

選考委員会の開催 : 平成18年5月末から6月上旬開催予定

理事会承認による奨学生の決定 : 平成18年6月上旬開催予定の理事会で決定

奨学金の支給(2回分割) 1回目 平成18年 7月 半年分支給

2回目 平成18年10月 半年分支給

3. 文化芸術普及活動事業(寄付行為第4条の第2項及び第6項) 【26,140,000円】

日本の伝統文化あるいは現代芸術の保護、育成及び振興を図るとともに、文化・芸術を通じた国際交流、文化芸術の向上に関する事業を行い、日本文化に根ざした新しい文化・芸術の創造・発展に務め、新しい時代の文明の創造と、人類の智慧ある生存に寄与することを目的とする事業

(1) 日本音楽公演「音楽のきずなシリーズ」(第9回) 【5,800,000円】

● 目的

わかりやすい解説で日本の伝統芸術、芸能の歴史をたどりながら、すぐれた実演に触れ、皆で体験することによって、日本の気候風土の中で培われた独特の文化が、いまなお脈々と息づいており、創作され、楽しく、すばらしいものであることを実感し、日本の伝統芸術・音楽がきずなとなって人々に心の安らぎと交わりの喜びを与える大切なものであることを再認識することを目的とする。

● 内容

日本音楽の中の「声」に焦点をあてる。「声を作る」という切り口で、義太夫等、様々な語り、歌、一流の演奏と、わかりやすい解説を提供。

公演名 : 「創造する伝統『音楽のきずな—声(仮称)—』」

主催 : 財団法人 日本文化芸術財団

後援 : 予定 文化庁、明治神宮、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

期日 : 平成19年1月20日(土) 午後3時00分開演 5時30分終演

会 場 : イイノホール
入場料 : 一般前売り 3,000円(当日3,500円)
 大学生前売り 1,000円(当日1,500円)
 高校生以下 500円
企画監修 : 小島美子
出演者 : 小島美子、川口京子 他

(2) 文化祭「社の中の伝統文化祭」 【18,300,000円】

● 目的

人が生活し、家族を作り、社会を形成する上で、必ず文化が存在する。言い換えれば、文化が存在しない社会はあり得ない。

日本に長い間存在している文化は自然との繋がりが密接であるが、近代化により、自然との繋がりが希薄になり、文明との繋がりが強くなった。「豊かで便利な暮らし」を目指した近代化は、自殺者数の増加や乳児を殺める母親など、心の歪みとして顕著に現れているように、文化の危機をもたらし、希望を抱ける社会の形成すら危うくしている。

われわれは、人の心を豊かにし生きるための糧となっていく文化を、次の世代に継承しなければならない。そのために、自然との結びつきの強い日本の文化を、現代の生活の中に取り戻すことが本事業の目的である。

● 実施概要(予定)

事業名 : 創造する伝統 「社の中の伝統文化祭」
主催 : 財団法人 日本文化芸術財団
助成 : 日本財団
特別協力 : 明治神宮
後援予定 : 文化庁、東京都、渋谷区教育委員会、江戸川区
江戸川区教育委員会、葛飾区教育委員会、江東区教育委員会
港区教育委員会、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学
読売新聞東京本社
協力予定 : (財)裏千家今日庵、(株)エピキュラス、(株)渋谷企画、
(学)清水学園、専門学校清水とき・きものアカデミア
(社)日本盆栽協会、NPO法人 響、明治記念館
(株)宮本卯之助商店、(財)ヤマハ音楽振興会
(株)ユナイテッドアローズ、(有)オアシス、(株)ベッカリイ
邦楽ジャーナル、(有)丸久商店、(株)虎屋他
開催日 : 平成18年7月
会場 : 明治神宮内苑芝生広場、各施設
監修 : 川口幹夫
動員目標 : 6,000人

実施内容

- ・「芸の達人」 衣擦れの音や息遣いまで感じることでのお座敷で、日本の宝といえる実演家の演奏を、結った匠とした時間と空間の中で体感する小規模演奏会。

日 時 : 平成18年7月7日(金)、8日(土)

会 場 : 明治神宮桃林荘

出 演 者 : 青木鈴慕(尺八)、他常磐津

参加費 : 大人5,000円 大学生2,000円 高校生1,000円

定 員 : 100人(二日間)

- ・「こどもの杜」おじいさんとおばあさんがこどものころからあった遊び、大道芸、物作り、芸能、夏の風物詩などを、見て、触れて、参加することで、日本の文化の楽しさ、美しさを感じることができる、こどもを中心とした家族のための催事。

日 時 : 平成18年7月15日(土)16日(日)17日(月祝日)

会 場 : 明治神宮文化館前広場(雨天会場:参集殿)

出演・参加: 上条充(江戸糸あやつり人形)、青木道雄(あめ細工)、青木喜(針金細工)、篠原風鈴本舗(風鈴の絵付け)ほか

動 員 : 3,800人(三日間)

- ・「体験の杜」 日本の茶・盆栽・浴衣・狂言等々を、本物を体験することで、日本文化の楽しみ・魅力を日常生活に取り入れるきっかけを提供する催事。

日 時 : 平成18年7月15日(土)16日(日)17日(月祝日)

会 場 : 明治神宮文化館前広場(雨天会場:参集殿)、隔雲亭

協 力 : (財)裏千家今日庵、(学)清水とききものアカデミア、茂山七五三他

参加費 : 無料(事前予約制) 一部材料費実費徴収

動 員 : 300人

- ・コンサート「秋庭歌一具」日本が世界に誇る作曲家武満徹の「秋庭歌一具」を10年ぶりに野外で再演。

日 時 : 平成18年7月22日(土)

会 場 : 明治神宮内苑芝生広場特設ステージ(雨天会場:神宮会館)

出 演 者 : 伶楽舎

動 員 数 : 800名

入 場 料 : 大人3,000円 大学生1,000円 高校生500円

- ・コンサート 「幻想の杜」杜を生かした野外舞台上、日本の芸能の中でも、歌、声、演奏、踊、衣裳、演目、演出等、磨き抜かれた演目の醍醐味を幻想的に紹介する、「粋」と「雅」と「感動」の野外公演

日 時 : 平成18年7月23日(日)
会 場 : 明治神宮内苑芝生広場特設ステージ(雨天会場:神宮会館)
出 演 者 : 江戸里神楽若山社中、伶楽舎、茂山家(狂言)
動 員 数 : 1,000名(500名招待予定)
入 場 料 : 大人3,000円 大学生1,000円 高校生500円
中学生以下無料(但し保護者同伴)

(3) 丸の内元気文化プロジェクト企画参加 【1,100,000円】

● 目的

全国から多くの人が集まる東京丸の内のランドマークである丸ビルで、普段なかなか接する機会の少ない伝統文化に触れ、一人でも多くの方に興味や理解を得ることで、今後の文化芸術の普及・継承に大きく寄与すると、同時に新しい場所での公演を実施することで、広く社会に認知してもらい、文化芸術の会の増強に繋がることを目的とする。

また、日本の中心である丸の内から、若い芸術家、一流の芸術家の作品発表、展示をし、人々が芸術のエネルギーに触れる機会をつくり、広く一般に寄与することを目的とする。

催 事 名 : 「ひまわりの塔」数式と音楽に秘められたもの(仮称)
内 容 : 日詰明男の作品「ひまわりの塔(高さ10メートル、直径3メートル)」の展示
助成顕彰事業受賞者の演奏(東野珠美、赤尾三千子、宮田まゆみ、吉村七重 予定)
主 催 : 財団法人 日本文化芸術財団
共 催 : 「丸の内元気文化プロジェクト」
特別協力 : 株式会社三菱地所 ほか
開 催 日 : 平成18年 詳細未定 1週間
会 場 : 丸ビル1F マルキューブまたは丸ビル内会場
入 場 料 : 無料

(4) ホームページ編集企画 【940,000円】

- 助成顕彰事業の情報等財団の活動報告
- 文化芸術活動の紹介
- インタビュー企画
 - 「伝統文化の今そしてこれから」
 - 「私たちが考える『音』への思い」寄稿
 - 「音と音のあいだ」
- 若者が芸術・文化に参加・興味を示すための企画準備